

狭山市教育委員会
教育長 向野 康雄 様

狭山市立入間川中学校
校長 関根 保子 印

令和元年度 狭山市立入間川中学校 学校関係者評価

※【評価の目安】 A:良くできている。 B:概ねできている。 C:あまりできていない。 D:できていない

領域	番号	評価項目	自己評価		学校運営協議会委員の意見 評価(文章表記)
			評価	説明	
学校運営全般	1	学校の重点目標が明確である。	A	・学校経営方針や重点は保護者会で伝えと共に、学校だより等で随時発信するように努力した。保護者アンケートの結果は98.3%(A+B)であった。 ・入間川中が好きと答えた生徒は平均で86.9%(A+B)であった。(3年は90.4%、2年85.9%、1年83.1%) 今後も100%を目指して教育活動に取組みたい。	・学校教育目標の具現化に向け、教職員が“チーム川中”の元に取り組んでいることが分かります。ただ、何事においても素早く対応できるよう、日々の先生方の研修と危機管理意識を持つようお願いします。 ・アンケート結果から重点目標については保護者の中に良く浸透していると思います。 ・学校生活が楽しいという生徒が学年が上がるにつれて増えているのは学校の取組の成果と感じます。 ・清掃については生徒数がとても少ないので仕方ない部分はありますが、総じてきれいであると感じます。 ・学校の教育目標、目指す生徒像、教師像など具体的に良いと思います。(歴年の積み重ね) ・毎日、夜遅くまで職員室の電灯がついていて遅くまで仕事をしているのが分かる。先生方の過労が心配です。 ・生徒数減少に伴う教職員の定数削減によって、今まで培ってきた教育活動ができなくなる、または縮小せざるを得なくなる等、教育力の低下を招くことがないように入間川小中学校運営協議会として市教育委員会に強く要望します。
	2	生徒は、学校生活が楽しいと感じている。	A	・教職員数が少ない中、皆で協力して取組もうとする雰囲気があり、教育活動が円滑に展開されている。今後も“チーム川中”として教育活動に取組みたい。	
	3	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	A	・清掃については、生徒の回答(A+B)は92%であるが、教職員の回答(A+B)は83%であった。生徒の「一生懸命にやっている」という意識と実際に指導している教師の意識の差を感じる。清掃に向かう心の指導、内容の充実、自主的に取り組ませる指導の工夫を今後更に向上させたい。	
	4	清掃が行き届き、学校がきれいである。	B	・施設、設備の老朽化に伴う修繕を行い、環境の改善を図った。教職員は定期的・日常的な安全点検に努めている。特に樹木の伐採、剪定は昨年度に引き続き積極的に行った。	
	5	学校の施設・設備は安全に管理されている。	A		
学習	6	教師は、生徒が興味関心のもてる授業、わかりやすい授業を実施している。	A	・保護者からは分かりやすい授業について94%(A+B)の肯定的な評価が出ている。また生徒の「学ぶ内容が良かった」の項目は91%(A+B)となっている。授業については概ね良好であった。自主的に、意欲的にという点においては継続的な課題であるとする。	・保護者の関心は、①わかりやすい授業、②楽しい学校生活だと思えます。保護者のA評価を見て、やはり一人一人に視点を当てた主体性のある授業をお願いします。 ・SSVCの活用等、学力向上についてよく取組んでいると思えます。 ・家庭学習の定着は各家庭の協力が欠かせないので引き続き家庭への啓発を継続して頂きたいと思えます。 ・授業をいかに面白い興味のあるものにするか。生徒に考えさせる授業。正解を求めるものでなく考え方を学ばせる授業をお願いします。 ・中学に入って学力が伸びているのは中学で良い指導がされているからだと思えます。 ・小規模校だからこそできる、支援ボランティア等を活用したきめ細かい指導をお願いします。 ・「学ぶ内容が分かった」を100%にする努力が必要である。地域ボランティアの更なる活用をお願いします。 ・小学校を卒業してから中学に入学するまでの時間を活用し、小学生の学力レベルを上げる取組を願います。
	7	生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。	A	・教職員は学習指導要領の改訂に伴い、「主体的、対話的で深い学び」の視点からの授業改善を継続していく。生徒の興味関心を高める導入や展開の工夫、学び合い等の技能を高められるよう研修を行いたい。	
	8	生徒は、基礎的基本的な学力を身につけている。	A	・生徒は落ち着いて授業を受けているが、学年ごとの差はある。全国、県の学力テストの結果は県平均をやや上回る結果が得られた。	
	9	生徒は、家庭学習の習慣を身につけている。	B	・家庭学習の取組には課題がある。県学テの質問紙調査では、「授業の予習、復習を全くしていない」、「土日に勉強を全くしない」、「4時間以上ゲームをする」と答えた生徒が県や市の平均より高い結果となった。家庭学習の改善に向けた取組が必要である。	
	10	生徒は、英語活動をととして積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	A	・英語の授業では積極的にコミュニケーションの場を設定するとともに、少人数指導を展開した。またSSVCの協力を得て学習支援をして頂いた。	
規律ある態度	11	生徒は、進んであいさつをしている。	B	・「進んで挨拶をしている」の項目では、生徒は88%(A+B)と高い評価が出ているが、教職員は67%(A+B)で、清掃と同様に生徒と教師の意識の差が表れた。促されてからの挨拶や消極的な挨拶はできてはいるが、中学生としてはつらつとした先取りの挨拶ができるように指導をしたい。	・体育祭、合唱祭とずっと“追っかけ”をしてきました。やはり川中の子供たちは素直で素晴らしいです。“あんな先輩になるぞ”という気持ちを感じられます。 ・生徒会を中心としてこの項目を議題として取組んだら如何ですか。⇒「子どもサミット」 ・生徒の服装などきちんとしているし、規律はよく守られているように思います。 ・校内で生徒と会うと良く挨拶してくれるし、アンケート結果より良い印象を持っています。 ・不登校の問題に地域人として心を痛めています。中学校の問題というより地域、家庭の問題として、どう切り込んでいくかが大事です。 ・ひと昔前に比べると確かに挨拶の声は小さく少なくなった気がする。関係性の希薄化は社会的傾向である。地域ぐるみ、PTAとの連携が要となると思います。 ・生徒指導が行き届いている。先生方が努力しているのが分かります。
	12	生徒は、場に応じた言葉遣いができている。	A	・保護者からは礼儀、清掃、時間等の基本的な生活習慣の育成については96%(A+B)という高い評価をいただいているが、学校における清掃指導においては今後の課題である。基本的な生活習慣の育成に関しては、今後も家庭、地域と連携をして取組んでいきたい。	
	13	生徒は、時間を守って生活している。	A	・生徒は決まりを守り、落ち着いた学校生活を送ることができている。この雰囲気や崩さないように今後も指導を継続していきたい。	
	14	生徒は、きまりを守って生活している。	A	・全教職員で清掃指導、登校指導、下校指導に臨むなど、自ら手本となる行動を意識して実践している。	
	15	教師は、自ら手本となり、規範意識を高めている。	A		
健康・体力	16	学校は、生徒の体力を高めている。	A	・新体力テストの結果では、県平均に達しない種目が多いが、男女共に「心と体を鍛える」という目標で長距離走(全身持久力向上)に力を入れている。ロードレース大会、全校駅伝練習、ふれあい駅伝は本校の自慢できる取り組みとして今後も継続させる。	・学力のベースは体力作りです。体力向上は保護者にも周知徹底し、学校全体でお願いします。体育の授業はもちろんですが、部活動でも頑張ってください。 ・体力向上についてはロードレース大会を実施したり、中学駅伝競走大会で活躍したり、良く取組んでいると感じます。 ・校内の取組、伝統行事など意欲的に取組んでいると思えます。
	17	生徒は、体育や健康増進の実践に意欲的に取り組んでいる。	B	・保健委員会での歯磨き週間の取組、給食委員会によるお弁当の日のキャンペーンなど、生徒の主体的活動を通して、食や健康に対する意識を高めている。	
	18	生徒は、健康を意識した生活をしている。	B	・救急救命講座、性教育、薬物乱用防止教室など、健康や保健に関する学習を計画的に実施することができた。	
地域との連携	19	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供している。	A	・学校だよりでは学校での様子に加え、多様な地域の活動に参加している姿を積極的に配信することができた。 ・今年度は特にSNSやスマホの利用についての講演会や通知文等による保護者への啓発活動に力を入れることができた。	・小中連携の他に幼保小中連携を今後も続けていってほしいです。 ・ボランティア活動の一覧表を作成し、掲示してみたいかがでしょうか？ ・地域のボランティア活動への参加は多い方であると感じます。
	20	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	A	・生徒も教職員も積極的にボランティア活動や地域の活動に参加し、地域との交流を深めることができた。 ・本校PTAをはじめ、保護者の理解と協力が、学校運営を円滑に行うことができた。	